様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ００４７０

研究課題名（和文）在英米日本関係古写真資料総目録の形成と写真資料情報化ガイドライン策定に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Compilation of a Comprehensive Catalogue of Old Photographic Materials Related to Japan in the US and UK and the Development of Guidelines for Cataloging Photographic Materials

研究代表者
研谷　紀夫（TOGIYA, NORIO）

関西大学・総合情報学部・教授

研究者番号：００４６６８３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、英米圏に保存された日本の古写真資料の①目録と主に英語圏で日本の古写真をカタロギングするに際して参考となる情報を掲載した②ガイドラインの2 点を編集して公開した。前者の①の目録には約170機関の資料が掲載され、全体で1700頁となった。また後者の②のガイドラインでは、基本情報を取得する手順と参考となる付録資料が掲載された。付録資料では主な写真師、日本の主な名所、勲章や制服の種類、それらが授与された年、日本の古写真に関する主要文献リストなどが掲載された。そして英米の写真アーカイブにおける日本関連の写真資料の現状やこれらの写真やガイドラインを活用した表象文化史に関する論文なども発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究において編纂された①目録と②ガイドラインの中で、①ついては2024年現在における英米の主要な機関における日本と関連する写真の内容を把握することができるため、今後の日本の古写真研究の進展に寄与するとともに、それぞれの機関が保存する写真の再評価を促し、資料の学術的な価値を見直す契機となる。また②についても海外において日本の古写真を扱うアーキビスト、キュレーターライブラリアンが写真についてより詳しい情報化を実施する際の参考になる資料となる。そしてこの①と②は国立国会図書館のデジタルコレクションなどでも公開される予定であり、今後半永久的に閲覧することができる点にも社会的な意義がある。

研究成果の概要（英文）： This study resulted in the compilation and publication of two catalogs: (1) a catalog of old Japanese photographs preserved in the United Kingdom and the United States, and (2) a set of guidelines for cataloging old Japanese photographs, primarily for use in English-speaking countries.
The first catalog includes materials from approximately 170 institutions, totaling 1,700 pages. The second set of guidelines outlines the procedure for obtaining basic information and includes reference materials in the appendix. This appendix provides information in English on major photographers, significant landmarks in Japan, types of medals and uniforms, the years they were awarded, and a list of major sources of old Japanese photographs.
Additionally, the study presents the current status of Japan-related photographic materials in British and U.S. photo archives, as well as papers on the history of representation and culture using these photographs and guidelines.

研究分野：表象文化史、アーカイブズ学

キーワード：古写真　表象文化史　アーカイブズ　メタデータ　MLA連携　日本研究　ドキュメンテーション　写真史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１.研究開始当初の背景

第二次世界大戦以前に日本で撮影・現像された古写真資料は戦前期の日本社会や風俗、景観や建築、人物の研究において重要な資料となり、近年こうした古写真資料を用いた研究が進展している。元来、歴史文化研究は文字資料を使用した研究が中心であったが、近年では写真資料などの「非文字資料」を通して歴史や社会文化を読み解く研究が活発となっている。また、写真資料は言語情報への依存度が少ないため、海外の人々が日本の古写真を通じてその歴史や文化に関心をもつ契機となる場合が多い。そのため古写真資料は海外との学術交流を促進させる資料でもある。そしてこれらの資料は、日本においては戦災や震災などが重なり、消失・散逸した資料も多いが、欧米では、重要な写真資料が、十分に情報化されないまま、保存されている場合が多い。しかし、その内容は、明治から戦前期にかけて日本を訪れた外交官や各種使節団、貿易商など比較的裕福で社会的地位の高い人々が撮影・入手した写真が多く、質の高いものや、日本の技術では撮影できなかった自然や景観、日本主要人物の肖像写真など、貴重な写真資料であることが多い。これら在外日本古写真資料調査については、主に仏、蘭、独、墺、露などの欧州の大陸地域が主であった。また日本と関係する在外資料全体についても、包括的な目録は存在せず情報として十分ではない。さらに、こうした目録データベースをインターネットによって公開する動向が顕著であるが、セキュリティやシステムの更新などで継続の負担が増加しているため、より負担が少なく永続性のある公開方法が必要となっている。

２.研究の目的

上述のような課題を背景に、本研究ではこれまであまり所在調査の対象とされていなかった、米国と英国の主要機関に所蔵されている日本の古写真資料の所在調査を実施する。その上で、より永続的な公開を目的として、電子書籍形式で国会図書館のデジタルコレクションより公開できる総目録を編纂する。また総目録の編纂だけではなく、主要機関と連携し、資料公開の促進を目的として、日本の古写真の台紙や被写体、年代の推定や、被写体となる人物や主要な建物などの同定をすることによって、より詳細な内容記述の助けとなるガイドラインを策定して公開する。そのことによって海外に散在する日本の古写真資料の情報化を促進し、世界中の人々がそれらを網羅的に検索しながら閲覧できる環境構築を行うことを目的とする。また、そうした基盤を整備することによって、近年日本よりも他のアジア地域に関心が移り、衰微傾向にあると言われる海外の「日本研究」の発展を促進し、在外日本古写真資料の認知と価値の向上を目的に置く。

３.研究の方法

研究の方法としては、まずは主な機関のデータベースを調査し、日本関係の写真がどの程度現在のオンライン目録に掲載されているかを調査した上で、各機関宛に連絡をして、オンラインには掲載されていない、日本の古写真資料がどの程度存在するかを、問い合わせた。そして、それらについては個別に目録情報の提供を求めた。またガイドラインについては、こうした連絡などを基本として関係を築くことのできた機関などにアンケートやインタビューなどを実施して、必要となる情報などを質問し、その結果などを柔軟に反映させながら、内容を確定していく作業を実施した。また現地調査などについては、途中で COVID-19 などの影響により渡航が困難になるなど、実施が難しい状況となったため、研究期間も当初の計画より大幅に延長するとともに、オンラインでの打ち合わせや資料の閲覧の機会などを増やして調査を補完した。しかし、それでも十分に確認の時間を設けることができなかった機関については、資料が掲載されたデータベースの URL のみを掲載する対応をとることとした。

４.研究成果

本プロジェクトの研究成果としては英米圏に保存された日本の古写真資料の目録で構成された「①The Comprehensive Catalogue of Japanese Old Photographs in the US and UK(図１)」と主に英語圏で日本の古写真を情報化するに際して参考となる情報を掲載した「②Guideline for Cataloging Japanese Old Photographs（図２）」の 2 点を完成して、プロジェクトのサイトにおいて公開し、英米の主要な機関にも告知された[1]。当該サイトは関西大学のサイトの中にあるため、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP：Web Archiving Project）の対象となっており、一定の期間を経た上で、国立国会図書館のデジタルコレクションにおいて公開される予定である。この中で前者の①は、英米の 170 機関に収蔵された戦前期に撮影された日本の古写真資料のアイテム及びコレクションの概要を収録し、総ページ数として約 1700 頁余りになった。米国と英国の比率は 3：2 であるが、英国に保存された資料はまだ WEB 上のデータベースなどに公開されていないものも多い。また 19 世紀に富裕層が撮影した写真が個人所有で伝わっているケースなども多いため、今後も貴重な写真資料が発見される可能性を持っている。一方の米国では Library of Congress と Harvard Library の写真資料が最も多く公開されているが、その他にも多数の機関で多くの日本の写真資料が公開されていることがわかる内容となっている。これらについては、英米ともに、(1) 観光、(2) 外交活動、(3) 財界交流、(4) 研究教育活動、(5)文化芸術動、(6)自然災害記録とその支援、(7) 布教・伝道活動、 (8) 移住・開拓活動、(9) 戦争、といった 9

カテゴリーの写真が多いことが分かった。

この中で初めに挙げた「(1) 観光」のカテゴリーにおいては、英米の富裕層が、戦前の日本を訪問した際に訪問した各地を撮影した写真が含まれている。これらについては英国の機関に保存されている例が多く、Cambridge University Library や Tyne & Wear Archives & Museums、Merseyside Maritime Museum-National Museums Liverpool、Manchester Central Library、University Of Manchester、Surrey History Centre、OxfordshireHistory Centre、Herefordshire Archive & Records Centre、Bankfield Museum Mount Stuart Trust など多数の機関に保存されている。また米国でも、American Museum of Natural History、Brick Store Museum、Museum of Ventura County、Tacoma Historical Society、Heinz History Center など複数の機関にこうした写真が保存されている[2]。

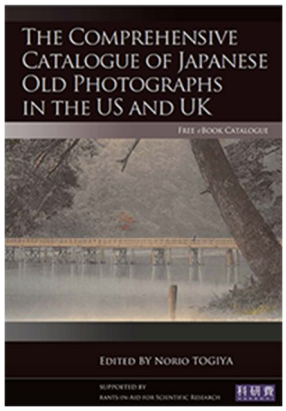

図１
「The Comprehensive Catalogue of Japanese Old Photographs in the US and UK」の表紙

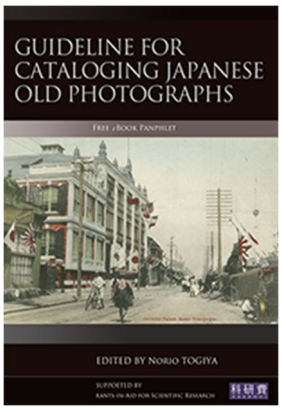

図２：
「Guideline for Cataloging Japanese Old Photographs」の表紙

また「(2) 外交活動」のカテゴリーは日本と英米間の外交活動を通して撮影されて写真などが含まれている。代表的な例としては、Smithsonian Institute に保存されている日露戦争後に日本を訪問した米国大統領の息女、Alice Hathaway Lee Roosevelt(1861-1884)と国務長官の William Howard Taft(1857-1930)などの写真や、Harry S. Truman Presidential Library and Museum に保存されている、戦前に米国を訪問した高松宮宣仁親王（1905-1987）と同喜久子妃（1911-2004）の写真などをあげることができる。またイギリスにおいては、明治初期にイギリスの外交官として東京に赴任した James Saumarez, 4th Baron de Saumarez (1843-1937)のコレクションや National Portrait Galley には Prince Edward, Duke of Windsor (King Edward VIII)(1894-1972) が皇太子時代に日本を訪問した時に撮影した写真などが保存されている。また同じ Prince Edward の訪日時に撮影された写真は Royal Collection Trust に保存されているが、同機関には、1930 年頃撮影された高松宮夫妻の写真など、日本の皇族関係の肖像写真が多数保存されている。

そして「(3) 財界交流」のカテゴリーは、主に戦前における経済人同士の交流において、撮影された写真などが含まれるが、こうした写真を保存している機関としては、ニューヨークの Rockefeller 家や Rockefeller 財産の資料を保存する Rockefeller Archive Center や、Kodak の創業者であった Gorge Eastman(1854-1932)に関する写真資料を収集した Gorge Eastman Museum、さらに自動車会社の Ford Motor の創業者に関する資料を集めた Henry Ford Museum など多数の機関をあげることができる。また次の、「(4) 研究教育活動」のカテゴリーについては、Smithsonian Institute などに保存された、Romyn Hitchcock（1851-1923）と J.F.McClendon（1880-1976）らが撮影した「アイヌ」に関する研究資料や、Johns Hopkins University の The Sheridan Libraries に保存される物理学者である Albert Einstein(1879-1955)の日本訪問に関する写真などをあげることができよう。同様に、イギリスにおいても、Museum of Archaeology and Anthropology や、British Library of Political andEconomic Science には、アイヌや日本各地を調査した写真資料が遺されている。

また、「(5)文化芸術活動」のカテゴリーに該当する写真としては、写真自体の芸術性が高く評価されている彩色写真や、蒔絵などの表紙で装飾された「横浜写真」と呼ばれる写真帖をあげることができるが、こうした写真は英米各地の機関に保存されている。代表的な例をあげれば、米国では Harvard Library や J. Paul Getty Museum をあげることができるが、英国においては、Victoria & Albert Museum や British Library などに多数の機関がこれに該当する。また、これらの写真には、歌舞伎や舞踊、楽器を演奏する姿など、日本の伝統的な各種の芸能なども写されており、当時の文化や芸術に関する活動の様子を伝える記録写真にもなっている。また、音楽という点に特化すると、イギリスの Royal Academy of Music には、三味線や月琴を弾く女性の写真が複数保存されている。さらに、芸術家が日本訪問時に撮影した写真としては、The Metropolitan Museum of Art に Edward Steichen(1879-1973)と並んで、ファッション写真家として知られる Adolf de Meyer（1868-1946）が戦前に日本で撮影したとみられる東京や京都などを題材とした写真が数多く保存されている。

さらに、「(6)自然災害記録とその支援」のカテゴリーについては、The Museum of Fine Arts,Houston に、関東大震災前後の東京や横浜の様子がわかるステレオ写真が複数保管されている。このステレオ写真とは、専用の機器を用いることで、立体視を実現する写真であるが、Library of Congress にもこのステレオ写真のシリーズで、震災後の東京や横浜を撮影した写真が多数保存されている。またそれ以外にも、Duke University Libraries においては、「Kantō Earthquake materials, 1923 and undated」と題されたコレクションが保存されており、この中には、東京にお

ける火災が発生した地域を示す地図や震災の概要を報じるグラフ雑誌や新聞の切り抜きをいれたスクラップブックとともに、写真入りのパンフレット、カラー写真が入った 18 枚のポストカードに加えて白黒写真や 120 枚のポストカードなどが保存されている。一方、こうした被害の写真だけではなく、再建後の様子をうつした写真も多数保存されているが、Corbis Historical Collection には、復興し整備された東京の写真が保存されている他、Library of Congress には、復興後の昭和 5 年 3 月 26 日に内務省と東京市が主催し、宮城外苑内で開催された帝都復興完成式典の様子を写した写真や、復興後に日本の市長代理が米国政府に震災への返礼をするために訪米した模様などを写した写真などが遺されている。

また、次の「(7) 布教・伝道活動」については、Abilene Christian University 付属の Brown Library に収蔵されている写真コレクションやニューヨーク市にある Maryknoll Mission の Archives などをあげることができる、特に後者は 1911 年に創設されたカトリックの海外宣教会であり、同会の Archives には、戦前期の日本における同会の活動を写した写真が多数保存されており、1930 年代の活動の様子がわかる写真や、教会での米国人宣教師と日本の信徒との集合写真、宣教とは直接関係ない富士山や彦根での川下り、東京や京都などの様子を写した写真絵葉書など、戦前の日本の風景や風俗を写した写真が多数含まれている。そしてこの中には、静岡県御殿場市にあったハンセン病者の収容施設であった神山復生病院に収容された患者の集合写真を写した絵葉書なども含まれている。また、イギリスにおいても、Cambridge University Library に、英国聖公会宣教協会（Church Missionary Society）が日本伝道時に撮影を行ったものや、School of Oriental and African Studies にも、日光にあるアメリカの伝道団体の拠点を撮影した写真などが保存されている。

一方で、禅などを中心とした仏教の普及のために逆に日本から米国に渡米した日本の仏教団や仏僧に関する写真資料も米国内に多数保存されている。例えば UCLA の Charles E. Young Research Library に収蔵されている「Ruth Strout McCandless Collection on Nyogen Senzaki, 1895-2007」には、鈴木大拙(1870-1966)とともに、米国で仏教の布教を実施したことで知られる Nyogen Senzaki (千崎如幻、1876‐1958)に関する資料が保管されており、書簡やエフェメラル、書籍、各種文書とともに写真が保存されているが、その中には戦中の強制収容所の様子や交流した日系人との集合写真なども含まれており、Senzaki の活動や生涯、交友関係を知る手がかりを提供している。また禅宗だけではなく、日本の他の教団による仏教の伝道活動に関する写真も保管されており、Stanford University の Hoover Institution Library and Archives に保管されている「Buddhist Church of San Francisco Records」には、日本の浄土真宗本願寺派（西本願寺）が 1898 年に設立した Buddhist Church of San Francisco に関する資料が保管され、その中に同寺の活動を写した写真が保存されている。

また（7）とも関連するカテゴリーである、「(8) 移住・開拓活動」については、ハワイ州にある University of Hawai‘i at Mānoa Library に所蔵されている「Stanley Kaizawa Collection」に、日系二世である Stanley Kaizawa (1921-2007)の活動の様子を写した写真資料が含まれている。また米国本土については CSU（California State University）においては多数の日系移民に関する資料を保存しているが、近年ではそれらをデジタル化して公開する Japanese American Digitization Project が実施されている。特にここでは第二次世界大戦中における日系人の強制収容などに関する資料を中心として、多数の写真資料などを公開している。また、その他の米国各地の図書館でも、日系人が残した資料が公開されている。例えば、UCLA（University of California, Los Angeles）Library では、日系一世で米国において実業家として活躍した Danzō Kiyohara（1881-1964）や White River Valley Museum では日系移民である Okuda Family の大戦前のアルバムなどが保存され、また California State University Sacramento Library には Kikuyo Morimoto Nakatani（1903-1990）が残した資料の中に多数の写真資料が保存されている。その他にもカルフォルニア州を中心に多くの日系移民の写真資料が保存されているが、Stanford University Library の Manuscripts Division にも、1910 年にカルフォルニアのサクラメントに移住した Honda Family が残した 950 枚の写真と 114 枚の絵葉書などで構成されている資料が保存されている。一方で英国には、Jewish Museum London には長崎に移住したユダヤ人に関する写真などが保存されている。

そして、最後の「(9) 戦争」のカテゴリーについては、本プロジェクトが第二次世界大戦前の写真資料を対象としているため、同大戦の写真は掲載されていないものの、それ以前の戦争についての写真は多数遺されている。その中で最も多いのが日露戦争に関する写真であるが、これらについては、米国の The University of Colorado Libraries、Duke University Libraries、Rutgers University Libraries、Hoover Institution Library and Archives、Stanford University、 Lafayette College Library、Boston Fine of Arts などに多数保存されている他、英国でも The Keep や、Royal Pavilion & Museums Trust、National Gallery of Scotland などに保存されている。また米国の National WWI Museum and Memorial には、第一次世界大戦における日本関連の写真が保存されている他、英国の Royal Air Force Museum には、戦前の中島飛行機や三菱などが製造した戦闘機の写真が複数保存されている。

以上が、カテゴリー（1）～（9）までの写真の保存状況であるが、各カテゴリーごとに極めて多くの資料が様々な機関に保存されていることがわかる[3]。また、本プロジェクトは第二次世界大戦前に焦点をあてて収集したが、戦中および戦後になると、より多くの写真資料の蓄積があると想定される。

また①の目録とあわせて編纂した後者の②のガイドラインでは、主に写真の「(A)撮影者」「(B)

撮影年代」「(C)被写体（人物)」「(D)被写体（場所)」「(E)フォーマット」に関する情報を第一に取得すべき基本情報であることを示した上で、それらを取得する上で基本となる手順と資料情報を示した。そして、これらを実行するための補助ツールを付録として掲載した。この中で（A)に関する付録では、日本の戦前期に活躍した主要な写真師の名前や活動地域、生没年や参考 URL などを記した資料を掲載した。特に日本の明治期の肖像写真の台紙には、アルファベットによって写真師の名前が印字されている例が多いが、海外においては、いつ頃どこで活躍した写真師であるかを確認することは難しい。そのため、年代や撮影場所の特定に必要な最低限の情報を掲載した。

さらに（B）や（C)などを判定する資料としては、人物や年代を特定するために、戦前期の勲章・制服の種類や、主要な人物が叙勲した年、主要な皇族や政治家の肖像写真などの資料を掲載した。特に海外に保存されている写真は皇族や高名な政治家や外交官、軍人などの写真が多いが、これらの写真には勲章などを佩用している写真が多い。そのため、本書では、著作権の失効した戦前の勲章や制服のイラストと、その英語名称、および主要な人物がいつその勲章を授与されたかについてのリストを掲載し、被写体の地位や撮影年代特定などの補助となる情報を掲載した。また、被写体が風景などである場合、その場所を特定する資料として著作権の失効した戦前の全国と外地の主要な名所などの写真に英語の地名を付与した資料も掲載した。特に戦前期に外国人が訪問する機会の多かった場所は、京都、奈良、日光、箱根、長崎、神戸、横浜、東京などであるため、こうした場所の戦前の写真などを掲載するとともに、英語の地名を記載した。またこれらの名所の多くは第二次世界大戦における空襲や戦後の開発などによって失われたものも多いため、現在の日本人にとっても戦前の写真の被写体特定の際の手がかりとなる写真である。さらに近年ではアマゾン社をはじめとするオンライン書店の発達によって、海外の書籍を輸入することが容易になってきている。そのため、海外の関係者が、日本の古写真関係の書籍を輸入し、カタロギングの参考するケースが多くなることも想定される。特に写真関係の書籍はビジュアルが多く、文章の量も少ないため、個人利用の目的で電子化するとともに、文章については自動翻訳機能を用いて、個人の研究目的で各国語に翻訳することも可能である。しかし、現在日本でどのような古写真関係の書籍が出版され、どのような内容であるかを把握しないと、海外からの入手も難しい。そのため本ガイドラインの付録では、現在アマゾン社などを通じて、日本から入手できる書籍を中心に、400 冊余の古写真に関する書籍の英訳タイトルと英文による簡単な解説を記した一覧も付与した。これによって、海外の機関などで、日本の古写真のカタロギングを実施する際に、参考となる日本の書籍を選定して、入手しやすくした。また、日本においては書籍以外にも古写真関係の展示図録が多く発刊されているが、これらはオンライン書店などではほとんど扱われていない。しかし、調査のために、国会図書館や東京都写真美術館の図書室で調査を行うことができる場合は、日本でこれらの図録に触れることができる。そのため、こうした図録についてはタイトルを中心に、簡単な英訳を行い、国会図書館の目録番号などを記載し、日本を訪問した時に調査を行えるデータも付与した。またこれらのデータは海外において日本の古写真を扱うアーキビスト、ライブラリアン、キュレーターだけではなく、日本において同種の資料を扱う関係者も活用できる資料となるものである。

また本調査においては IIIF（International Image Interoperability Framework）などの機能の実装を確認したが、これらを実装しているのは、Harvard Library、Oxford University Library、Cambrigh University Library などの一部の主要機関のみであり、在米日本古写真資料を所蔵する多くの機関では未実装である事が分かったが、今後こうした機能への検討が今後必要になるであろう。また、本目録で示した写真資料は 2024 年までに把握できた資料であるため、全体の一部であると考えられる。今後も発見される写真資料などを定期的に把握し、包括的にこれらの資料にアクセスできる仕組みを構築することが必要であろう。

さらに、本研究ではこうした調査を踏まえて、各種の論文などを執筆して公刊した。これらは前述したような、英米の機関に保存された写真の概要に関する論文と、これら海外の写真を用いた表象文化史に関する研究論文である。特に海外には明治期の写真師である小川一眞に関する写真や、天皇や皇族に関する写真が多数保存されており、British Museum などに所蔵されていた資料などを用いた研究の結果を発表した[4][5]。今後もこうした海外にある日本の古写真資料などを用いた表象文化史や広い意味での「日本研究」が発展して行くことが望まれよう。

＜引用文献＞

[1]https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t120047/kaken/index.html (Accessed:24-05-30)

[2]Norio TOGIYA「Current Status of Japanese Old Photographic Materials in the United States and the United Kingdom, and the Archiving of the multiple "Gazes"」 『情報研究:関西大学総合情報学部紀要』53 巻、2021、13-26 頁

[3]研谷紀夫「在米日本古写真資料に写る交流の記憶：古写真の中にみる国際交流と異文化理解のかたち」『情報研究:関西大学総合情報学部紀要』55 巻、2022、1-24 頁

[4]研谷紀夫「明治後期における博文堂の写真出版事業-写真師小川一眞との関わりを中心として」『映像学』No.108、2022、1-23 頁

[5]研谷紀夫「明治期における内親王の肖像とそのメディア表象-小川一眞撮影の周宮房子内親王の肖像写真を中心に」『映像学』 No.111、2024、116-135 頁

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 研谷紀夫	４．巻 111
２．論文標題 明治期における内親王の肖像とそのメディア表象-小川一眞撮影の周宮房子内親王の肖像写真を中心に	５．発行年 2024年
３．雑誌名 映像学	６．最初と最後の頁 116-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 研谷紀夫	４．巻 40
２．論文標題 昭和二十年代の記念式典に見る象徴天皇像の形成-三私立大学の創立記念式典における「御言葉」の変化を中心に-	５．発行年 2024年
３．雑誌名 近代日本研究	６．最初と最後の頁 113-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Norio TOGIYA	４．巻 所収論文
２．論文標題 Archives and Collections of Old Photograph Related to Japan in US and UK	５．発行年 2024年
３．雑誌名 The Comprehensive Catalogue of Japanese Old Photographs in the US and UK （https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t120047/kaken/catalogue_j.html）	６．最初と最後の頁 10-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 研谷紀夫	４．巻 55
２．論文標題 在米日本古写真資料に写る交流の記憶―古写真の中にみる国際交流と異文化理解のかたち―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 情報学研究	６．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00028141	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 研谷紀夫	4．巻 108
2．論文標題 明治後期における博文堂の写真出版事業-写真師小川一眞との関わりを中心として	5．発行年 2022年
3．雑誌名 映像学	6．最初と最後の頁 78-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 研谷紀夫	4．巻 11
2．論文標題 小川一真関係資料における皇族関係写真とその撮影年代の特定-写真原板・勲章・軍服・各種文献を手がかりとして-	5．発行年 2023年
3．雑誌名 行田市郷土博物館研究報告	6．最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 研谷紀夫	4．巻 53
2．論文標題 Current Status of Japanese Old Photographic Materials in the United States and the United Kingdom, and the Archiving of the multiple "Gazes"	5．発行年 2021年
3．雑誌名 情報学研究	6．最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 研谷紀夫	4．巻 第十集
2．論文標題 『日誌　第壱号（従明治二十二年七月）』について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 行田市郷土博物館研究報告	6．最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊桂子　研谷紀夫	4．巻 第十集
2．論文標題 ＜史料紹介＞翻刻　原田庄左衛門　『日誌　第壱号（従明治二十二年七月）』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 行田市郷土博物館研究報告	6．最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Norio TOGIYA	4．巻 1
2．論文標題 Evaluation of Metadata in Stock Photography and Issues Thereof ：Focusing on Getty Images’ Historical News Photos of Emperor Hirohito	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Integrated Studies of Cultural and Research Resources	6．最初と最後の頁 65－132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 研谷紀夫
2．発表標題 建築写真のスペクタクル性とその記述――小川一眞撮影の明治期建築写真を題材として
3．学会等名 アート・ドキュメンテーション学会
4．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

1．著者名 谷島 貫太、 松本 健太郎（編）門林岳史、松山秀明、水島久光、柿田秀樹、塙幸枝、神田孝治、宮本隆史、小西卓三、研谷紀夫（分担執筆）	4．発行年 2017年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 216
3．書名 記録と記憶のメディア論（“シリーズ”メディアの未来）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

①カタログと②ガイドラインは以下のサイトで公開されている。

The Comprehensive Catalogue of Japanese Old Photographs in the US and UK
https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t120047/kaken/catalogue_j.html

Guideline for Cataloging Japanese Old Photograhs
https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t120047/kaken/guideline_j.html

上記2点は関西大学内のサイトで公開されるが、当該ページは国立国会図書館のWARP（国立国会図書館インターネット資料収集保存事業）の対象であるため、同事業によってデータが収集され、一定期間後に国立国会図書館デジタルコレクションでも公開される予定である。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関